

地域の畜産を守る地域経営支援組織の育成

～ 共同哺育育成事業の運営組織設立へ（JA道央管内）～

1 課題設定の背景

○JA道央管内の市営牧場（2組織）

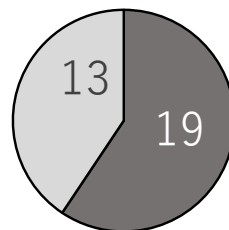
- ・8カ月齢以上
- ・夏期放牧・通年預託
- 既に収容能力の上限に達している
- 酪農家の労働過重や育成施設不足による育成牛の発育不良が課題

○(株)道央ファーム

- ホルスタインの雄肥育から雌哺育育成預託への経営転換検討

道央ファームにおける哺育育成預託について

(戸)



■ 検討する・興味がある

□ 検討しない

6割が前向き

共同哺育育成事業の運営組織設立の支援

2 活動内の内容

R1年

①十勝管内4哺育施設を視察（写真1）

出席者（JA役員、JA職員、ホクレン、道央ファーム職員、普及センター）

②管内4地区の部会長との意見交換



写真1 哺育育成センター代表者より説明を受ける（中札内村カーフゲート）

R2年

①胆振管内4哺育施設を視察（写真2）

出席者（JA役員、JA職員、道央ファーム職員、普及センター）

②勉強会の開催（写真3）

③現地検討会（道央ファーム）

④設立シミュレーションの実施



写真2 低コストハウス牛舎の説明を受ける（安平町）



写真3 畜産試験場研究員による育成牛の飼養管理についての勉強会

3 活動の成果

- ・視察研修、学習会を重ねることで、共同哺育育成事業を設立・運営するための方法、方向性が理解された。
- ・預託希望者による検討会は、Covid-19感染リスク軽減の観点から実施には至らなかったが、意向確認の必要性は認識された。
- ・共同哺育育成事業や酪農経営支援組織の検討、協議をするためのプロジェクトチーム（JA道央、ホクレン、普及センター）が組織され、支援体制が整った。

4 今後の対応

- ・プロジェクトチームによる個別の意向調査の実施
- ・利用希望者検討会のコーディネート